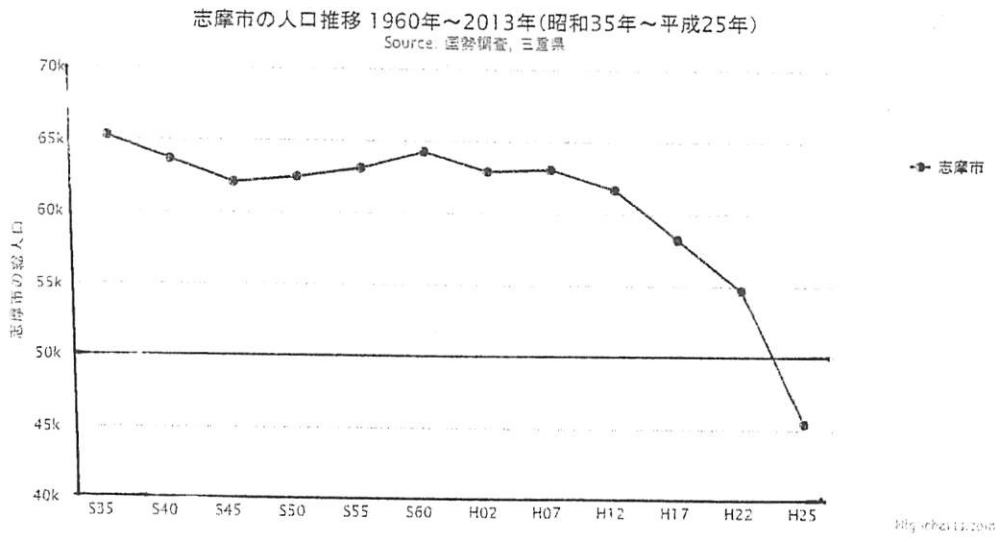


1. あいさつ
2. 会場：代々木高校
3. 時間：19:00～21:00
4. 講座：「高校生の考える志摩市の未来」
参加高校生：高橋

内容：

- ① 自己紹介 氏名、在籍高校名、学年、住所
- ② 10年前の様子（志摩市合併で記憶していること、その当時の志摩市への夢）
- ③ 現在の様子……資料を見て、思うこと
- ④ これからの志摩市に臨むこと
 - 人口減少 … 学校統合 → 高校生はこのように考える
 - 高齢化 … 地域の中で こうしたらいいのではないか
 - 若者が働く場所づくり … できそうなこと、やってほしいこと
 - 若者が志摩市を活性化するとしたら、私はこう考える
- ⑤ 会場の賢島大学生との意見交流会
- ⑥ 10年後の志摩市はこうあってほしい（参加高校生の夢、志摩市への、大人たちへのお願い）
- ⑦ まとめ
- ⑧ 閉会のあいさつ、諸連絡 （21時終了）

志摩市の人口推移 1960年～2013年(昭和35年～平成25年)

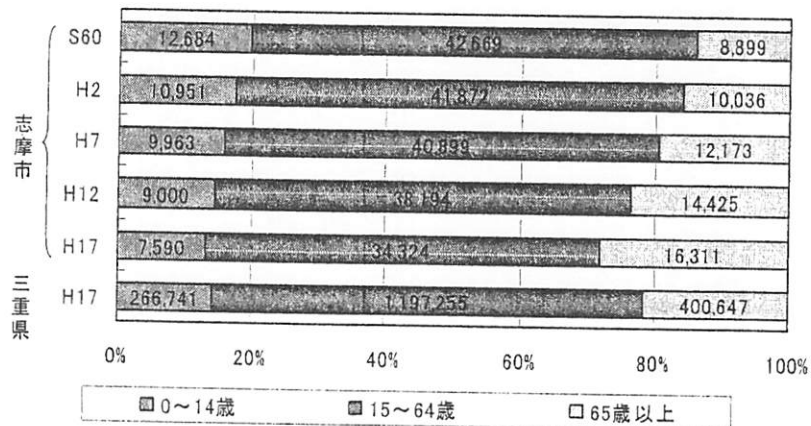


《年齢別人口》

平成 17 年現在の本市の年齢別人口をみると、年少人口（0～14 歳）は 7,590 人、生産年齢人口（15～64 歳）は 34,324 人、高齢人口（65 歳以上）は 16,311 人となっており、構成割合としては、県平均と比べて高齢人口比率が高いことが特徴といえます。

各年齢層の人口推移としては、年少人口の減少と高齢人口の増加がみられ、平成 7 年の時点で構成比の割合が逆転するなど、少子・高齢化が著しく進行しています。

図 年齢階層別人口比率の推移 (国勢調査)



人口、都市機能指標

《総人口及び 総世帯数》

平成 17 年現在、本市の人口は 58,225 人、世帯数は 20,700 世帯となっており、地域別には阿児地域の占める人口割合が高くなっています。

人口推移については、県平均として微増傾向にある中で、本市は減少傾向にあり、特に、平成 12 年から 17 年の 5 年間では、減少数が 3,403 人（増加率▲5.8%）と県下第 1 位の大きな減少数を示しています。世帯数については、阿児地域で増加しているものの、市全体としては減少傾向を示しています。

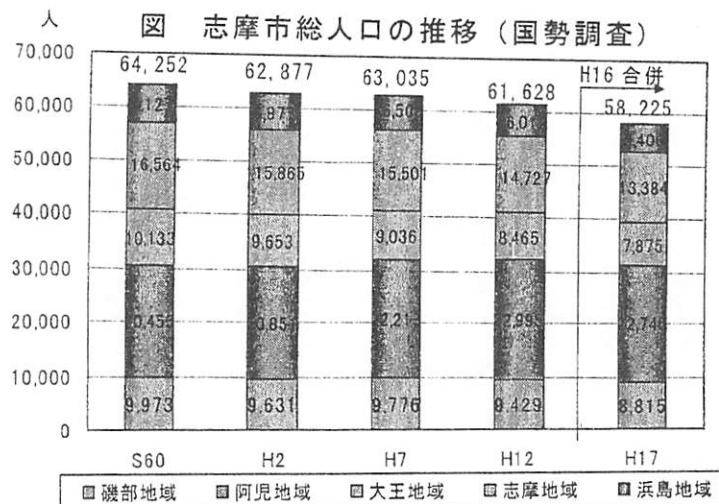
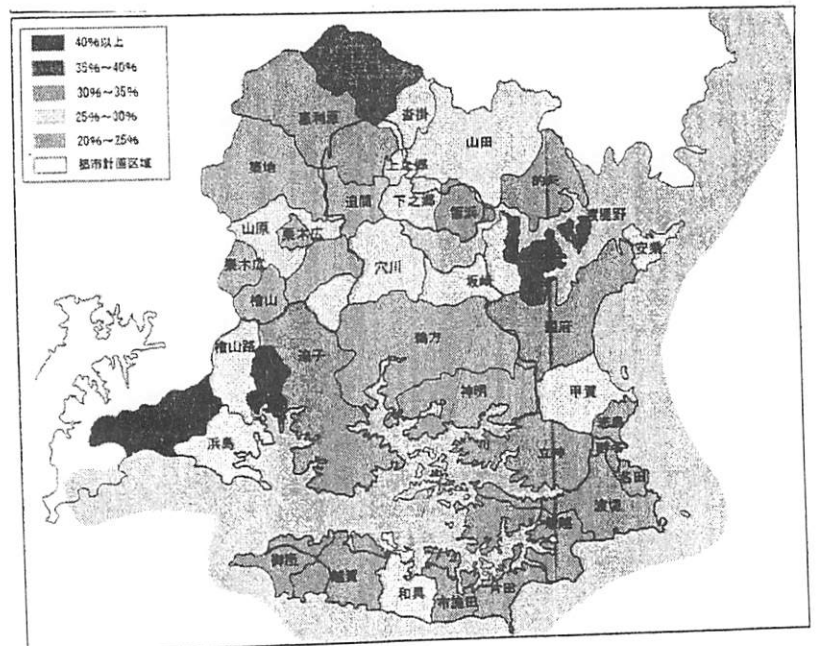


図 字別の 65 歳以上人口
比率（H17 国勢調査）



＜流出入人口＞

本市の就業・就学に係る流出入人口は、平成17年現在、流出人口が5,630人、流入人口が2,127人であり、3,503人の流出超過となっています。

なお、流出先は、伊勢市と鳥羽市をあわせて全体の6割以上を占め、流入に関しても、これらの2都市が5割程度を占めており、隣接都市とのつながりの強さが伺えます。

また、平成12年の合併以前のデータを用いて市内各地域の流出入の動向をみると、いずれの地域も、自地域内での就業・就学比率が高くなっていますが、阿児地域への流出比率も高く、阿児地域がある程度広域的な就学・就業の場となっていることが伺えます。

図 就業・就学に係る流出入人口 (H17 国勢調査)

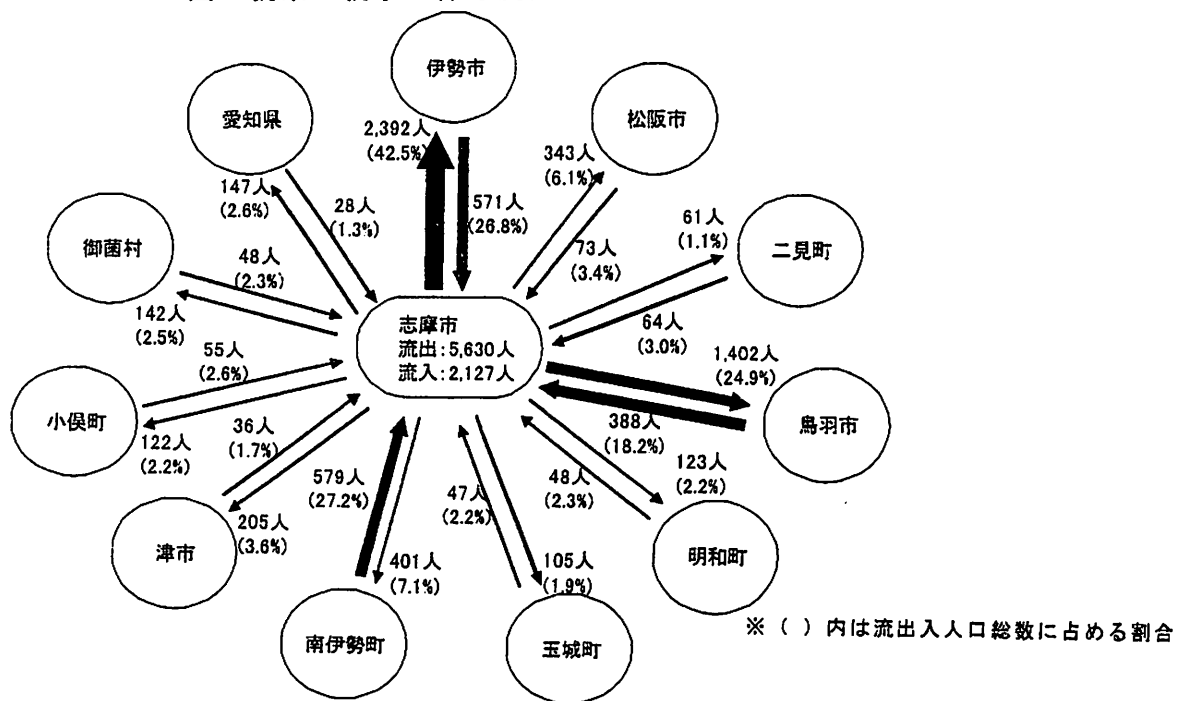


表 市内各地域の流出入人口 (H12 国勢調査)

就業地・就学地	常住地									
	阿児地域		磯部地域		大王地域		志摩地域		浜島地域	
阿児地域	8,288人	(65.9%)	596人	(11.4%)	837人	(18.9%)	1,079人	(13.6%)	432人	(12.8%)
磯部地域	1,356人	(10.8%)	3,163人	(60.7%)	299人	(6.7%)	329人	(4.1%)	209人	(6.2%)
大王地域	302人	(2.4%)	70人	(1.3%)	2,552人	(57.5%)	395人	(5.0%)	25人	(0.7%)
志摩地域	250人	(2.0%)	33人	(0.6%)	175人	(3.9%)	5,343人	(67.2%)	33人	(1.0%)
浜島地域	296人	(2.4%)	39人	(0.7%)	42人	(0.9%)	63人	(0.8%)	2,060人	(61.2%)

※ () 内は各地域の流出入人口総数に占める割合